

LPガスCP速報(2022年5月積)

1. 5月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **850** ドル (前月比-90 ドル)

ブタン **860** ドル (前月比-100 ドル)

① LPガススポット市況等

ロシアのウクライナ侵攻から2ヶ月、原油市況が乱高下するなか、LPガス市場をみると、欧州では温暖な気候と、石化、ガソリンブレンド需要が減退、天然ガス代替需要が下支えも原油市況軟化でプロパン、ブタンともに下落した。中東市場も不需要期を迎え、中国、ベトナムなどPDH需要が散見されたが、カタール、サウジ等産ガス国のスポット販売も多く需給タイト感は薄れた。ナフサ代替のブタン需要も豪州、アメリカ西海岸からブタン付カーゴのスポットもあり、ブタン高は解消されてきた。極東CFRは、原油市況の軟化を受け第4週で前週比30 ドル 下落のプロパン845 ドル 、ブタン850 ドル どころ、前月末から100 ドル の下落となっている。

米国では、プロパン需要はピークを過ぎたものの、輸出とともに堅調、高水準が続いている。全米プロパン在庫は6週連続で増加、前年同期比の96%にまで回復したが、5年平均レンジの下方(グラフ②)、低水準で推移している。米モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況軟化を受け下落、第2週には700 ドル を割り込み、下旬入り後も650 ドル を挟んだ展開。MB月間平均は前月比67 ドル 下落の675 ドル どころ(グラフ①)。なお、パナマ運河滞船日数はLNG船の通航減もあり2~5日に落ち着いていたが、再び増加傾向。

フレート市況は続伸。インドの5月上旬の備船や産ガス国のスポット販売もあり船舶需給はタイト気味で市況は堅調に推移。米国からのスポット販売も船舶需給を締めているが、フレート高がアジア、欧州向けの採算ベースを悪化させ、FOB玉も限定的で今後の軟化要因。

ナフサは原油価格に連動し反落、先月には1,000 ドル を突破していたが、900 ドル 挟んでの展開、月間平均は910 ドル どころで、前月比100 ドル の下落。ブタン市況の下押し要因となった。

バンカーオイルは大幅続騰、シンガポールIFO380は月間平均で前月比64 ドル 高の722 ドル 、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同42 ドル 上げの1,122 ドル どころ、低硫黄ガスオイルの上昇が著しいが、両油種の格差は、C重油の急騰を受け400 ドル に縮小した。

5月CPは前年同月比プロパン355 ドル 、ブタン385 ドル それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン4、ブタン6ポイントそれぞれ低下、前年同月比ではプロパン3ポイント、ブタン7ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	65	65	70	70	68
CP先物指標：P	850	815	870	865	850
CP先物指標：B	870	830	875	870	861

② 原油市況等

4月の原油市況をみると、ウクライナ危機直後の極端な乱高下は収まってきたが、依然ボラティリティが高い状況、WTI期近終値でみると高値は18日の108.21 ドル 、下値は94.29 ドル と高低差は約14 ドル に達している。軟化要因は、IEA加盟国の過去最大の協調備蓄放出、中国上海のコロナ対策によるロックダウンの長期化やIMFの経済成長見通しの引き下げ、米金融当局の利上げによる需要減退懸念。一方、EUはロシアエネルギー依存脱却を模索、段階的なロシア原油禁輸の可能性が高まり、他市場への需給逼迫要因となった。また、ロシア原油の減産が明らかになりつつあり(2022年は17%減の可能性も)、天然ガスについては、ポーランド、ブルガリアへの供給を停止、これを受けて、ヘンリーハブ(天然ガス)市況が急騰、NYの暖房油先物市況は26、27日に市場最高値を更新した。先物市場は極端なバックワーデーション(期近高)、需給逼迫の頭われで、ウクライナ危機が収束されない限り乱高下も収まりそうもない。

○4月積みアラビアン・ライト(4月1~27日までの想定)は107.45 ドル (前月比-6.276 ドル)

熱量等価AL100% プロパン 880.98 $\text{ドル}/\text{トン}$ ブタン 868.89 $\text{ドル}/\text{トン}$

AL比 プロパン 96.48% ブタン 98.89%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

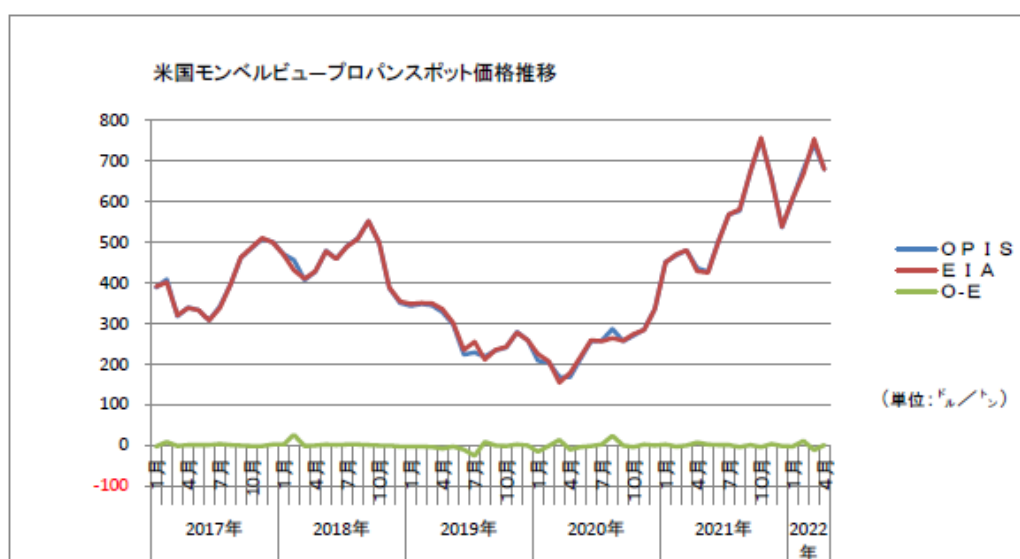
2. 2022年5月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	124.88	116,400	122,000	+2,300	+3,500
②末日締め	126.98	118,300	124,300	+2,100	+3,200

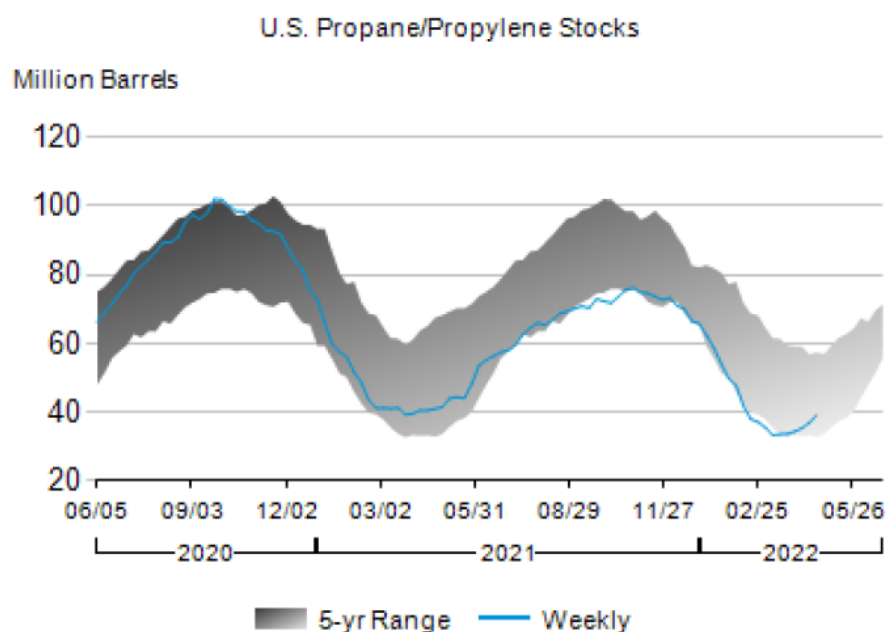
*TTS平均について、①が3月21日～4月20日、②4月1～28日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは4月27日までの価格を基にEINで試算（675ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米国プロパンスポット価格推移



②全米プロパン在庫推移



出典:EIA Weekly Petroleum Status Report